

瀬戸内地域の 戦後と未来を 考える

民俗学者宮本常一を通して

Reflections on the post-war period
and the future of the Seto Island Sea Area

Through the work of Tsuneichi Miyamoto, a folklorist



舟に残って遊ぶ子ども 豊島（広島県 昭和32年8月 撮影：宮本常一）

2012/10/27 [土]

13:00-17:00 (開場: 12:30)

会場：広島市まちづくり市民交流プラザ 研修室A・B・C

(広島市中区袋町6番36号)

定員：60名 (当日受付・先着順) 《参加費無料》

● 宮本常一 [1907/8/1-1981/7/30]
山口周防大島出身の民俗学者。
浜沢敬三に見込まれて民俗学の道
に入り、戦前から高度成長期まで
1200軒もの民家に宿泊しながら
日本各地をフィールドワークし
続け、膨大な記録を残した。



主催：広島大学文学研究科、広島大学産学地域連携センター、周防大島町教育委員会、周防大島文化交流センター

後援：広島大学大学院比較日本文化学プロジェクト研究センター



水上に掛け出したマーケット 尾道



井戸水を汲む 真鍋島

《構成》

1. 基調講演（50分）……戸田常一

「瀬戸内海をめぐる経済社会の情勢変化と地域再生の視点と課題」

2. パネリスト報告（20分×3本）

高橋延明「宮本常一の写真作法」

戸田昌子「宮本常一の写真表現」

緒川直人「写真史料研究のソシアル・スウィング―写真経験の社会史―」

3. パネルディスカッション（90分）

……「写真が語る戦後地域史」

司会：河西英通（広島大学）

4. 会場展示

「宮本常一が歩いた瀬戸内の風景」



● 緒川直人（おがわなおと）



● 戸田昌子（とだまさこ）



● 高橋延明（たかはしえんめい）



● 戸田常一（とだつねかず）

広島大学総合科学研究科博士後期課程修了。東洋大学社会学部・講師。専門は歴史学・写真史料研究。編著書に、「戦前期写真史料学の誕生」（『文化資源学』8号、2010年）、「写真・編著新時代の桑田正三郎」（『史学研究』274号、2011年）、「写真経験の社会史―写真史料研究の出版―」（編著 岩田書院、2012年）など。

写真史研究者。1975年東京生まれ。上智大学文学部新聞学科卒業、東京大学大学院人文社会系研究科修士課程修了。武蔵野美術大学、東京総合写真専門学校非常勤講師。専門は日本写真史。近代写真および報道写真の歴史についての研究。

写真家。1955年東京生まれ。東京農業大学卒業後、職業写真家をめざしスタジオマンとなる。写真家・大久保泰伸氏に師事した後、広告PR編集プロダクションカメラマンとして勤務。1996年より独立。『週刊二〇世紀』編集部にてフォトプロデューサーとして関わる（公社）日本写真協会・（公社）日本写真協会会員、「東京写真月間」運営委員。著書に「写真家をこえた写真家、宮本常一」（『宮本常一写真図録』第2集、みずのわ出版）など。

広島大学大学院社会科学部研究科マネジメント専攻・教授。工学博士（京都大学）。地域政策、地域振興などの教育・研究に従事。日本地域学会（理事）、瀬戸内海研究会（理事・企画委員）などの役員を務めるほか、広島県観光立県推進会議（会長代理）、中国地方物流戦略チーム（部会長）などの委員を務める。主な著書に『瀬戸内海を里海に―新たな視点による再生方策―』（執筆分担、瀬戸内海研究会編、恒星社厚生閣、2007）など。